

工芸資料展と 富山大学博物館

12

概要

地域づくり・文化支援センターでは、高岡短期大学の大学開放センター時代に研究用あるいは教育用資料として購入した作品や同大学の歴代教授が寄贈した工芸作品など200点以上の収蔵品を引き継ぎました。

そこで県内各地の美術館等と連携し、大学が持つ収蔵品を積極的に公開し、地域に根ざした大学をアピールする巡回展を行うこととなりました。

県内全域に広げていくことを目標に定め、最初は元センター専任教授で宮崎雅司氏が館長を務める南砺市の井波美術館において、当センター併任教員の大熊准教授による厳選、指導のもと工芸資料展がスタートしました。

ところが巡回展を広げることがなかなか進まず、年に一度の井波美術館で行う工芸資料展が主たる展示事業となりました。

唯一、巡回展となったのが、平成20年2月に地域づくり・文化支援センターと舟橋村との地域づくりに関する協定を締結した舟橋村の図書館で同年11月に実施した工芸資料展です。

また、この工芸資料展の経験を活かして、大熊准教授の指導のもと、平成21年7月7日にオークス カナルパークホテルで開催した富山大学地域連携推進機構主催のコラボフェスタにおいて、富山大学の3キャンパス内で所蔵する知的文化財を展示する富山大学博物館を開催することができ、学内外から多くの反響を得ることが出来ました。

目的

大学が所蔵する作品や工芸作品を積極的に地域において公開し、地域に根ざした大学をアピールします。

大学が持つ収蔵品を知ってもらうことから、地域と大学の垣根をふりはらい、大学が持つ資源を生かしたまちづくりや文化活動に役立てます。

内容

これまで実施してきた工芸資料展の主な展示品は次のとおりです。

●2006年7月19日（水）～ 31日（月）

高岡短期大学部産業工芸資料展

時間：9時00分～16時00分

場所：井波美術館

高岡短期大学名誉教授の林 哲三氏の挽物「櫛式漆鉢」、根本曠子氏の漆工芸「乾漆花文鉢」や故横山幸文氏の漆パネル「朝」など21点



●2007年4月25日（水）～ 5月7日（月）

平成19年度 富山大学所蔵工芸資料展

時間：9時00分～16時00分

場所：井波美術館

高岡短期大学名誉教授 麻生参朗氏の「青臥」など金属工芸品9点と根本曠子氏の「乾漆切絵筥『波崎』」など漆工芸品10点



●2008年5月14日(水)～26日(月)

平成20年度 富山大学所蔵工芸資料展
時間：9時00分～16時00分
場所：井波美術館

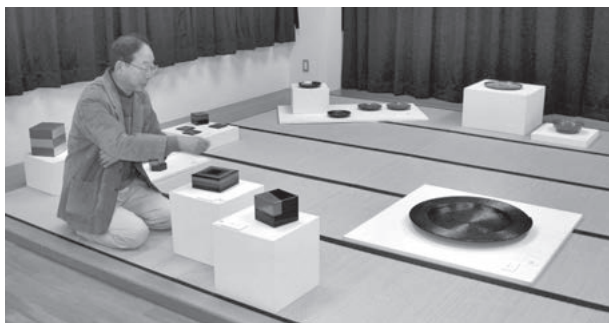
中村富栄氏の作品「研出し盆 孔雀草」(昭和20年代)など
漆工芸品34点と「小箱」(昭和40年代)など木作品14点



●2008年11月11日(火)～16日(日)

平成20年度 富山大学所蔵工芸資料展
THE WORK OF TOMIE NAKAMURA
時間：10時00分～17時00分
場所：舟橋村立図書館

中村富栄氏の作品「研出し盆 孔雀草」(昭和20年代)など
漆工芸品34点と「小箱」(昭和40年代)など木作品14点



●2009年6月10日(水)～22日(月)

平成21年度 富山大学所蔵工芸資料展
時間：9時00分～16時00分
場所：井波美術館

タイの「フォーク&スプーン」やエチオピアの「オロモ族・カファ族 枕」などアジア・アフリカの各種工芸品25点



●2010年7月7日(水)～19日(月)

平成22年度 富山大学所蔵工芸資料展
時間：9時00分～16時00分
場所：井波美術館

後藤義雄氏の「乾漆稜花形食籠」、根本曠子氏の「乾漆切絵箱『むくげ』」、林 哲三氏の「杉拭漆沙磨合子」及び故横山幸文氏の「朝」など木工及び漆作品16点



●2009年7月7日(火)

コラボフェスタ2009 富山大学博物展
時間：13時00分～17時00分
場所：オックス カナルパークホテル 2F 桜の間

富山大学3キャンパスの各部局に分散して保管されてきた学術的に価値のある知的文化財を探索し、コラボフェスタ2009において下記の構成で展示公開しました。

Ⅰ 富山大学の歴史

大学の前身となる旧制「富山高等学校実況絵葉書」など8点

Ⅱ 薬学教員の伝統と挑戦

「漢薬標本」など13点

Ⅲ 富山の自然と究める

「真正深海生物オオグチホヤ 実物大精密模型」など9点

Ⅳ 人知を追い求めて

ヘルン文庫蔵書 ラフカディオ・ハーン「怪談」など20点

Ⅴ 工学研究と地場産業

鑄造技術「木製鑄造」など23点

Ⅵ 工芸美の精華

杉田細工「食籠」など9点

